

第3回「北九州市地球温暖化対策実行計画・環境モデル都市行動計画」 検討部会(4月6日開催)の結果について(報告)

1 議事

- (1) 北九州市地球温暖化対策実行計画・環境モデル都市行動計画(事務局素案)について
- (2) 国の地球温暖化対策計画との整合について
- (3) 今後の予定

2 各委員からの主な意見

(1) 部会でのご意見について

- 旧モデル都市計画と内容が大幅に異なるため、サブタイトルを「北九州『ニュー』グリーンフロンティアプラン」としてはどうか。
- 市内事業所がCO₂削減に取り組むことは他の部門と同じであるため、部門別の「取組の目安」は、「産業部門」も「家庭・業務・運輸部門」と同じ取扱いをすべきではないか。
- 大企業については、国の目標に即して策定した「自主行動計画」に基づき取組を推進しており、市はその取組結果の共有を図ることで良いのではないか。
- 「取組の目安」は各取組による削減量の合計を個別の家庭や事業所などに分けたものであるため、全体の「削減目標」自体には変わりがない。
- 今回、「地球温暖化対策実行計画」と「環境モデル都市行動計画」が一体となった計画を策定することから、本計画の項目がそれぞれどの計画に基づくものかを整理し、第1章の「計画の位置付け」に明記すべき。
- 長期的な目標を掲げることも重要だが、近い将来の目標に向かって、短く PDCA サイクルを回して、有効な対策を速やかに講じることが重要ではないか。

(2) 具体的な取組について

- 家庭部門の「世帯当たり」については、構成人数や年齢によりエネルギー消費量が異なる点など、市民がより行動しやすくなるよう文章を補足してもらいたい。
- 長期的に取組を推進していくためには未就学児への教育が重要であるため、「環境教育の推進」の中に「就学前教育」の観点を追加すべき。
- 活性化協議会による「小学校応援団」の活動などの「民間」や「NPO」が実施する取組を追加すべき。
- エネルギー関連の取組が主流となっているが、都市空間における緑化など緑を増やす取組をもう少し追加してほしい。

3 部会案の取りまとめ

部会案の取りまとめは、部会長に一任することとし、次回開催の環境審議会に報告することが了承された。